

産業技術連携推進会議 知的基盤部会 地質地盤情報分科会
令和3年度講演会 「地質リスクの低減に向けた地質調査・データクオリティ・解析技術」

講演要旨

1. 「プロジェクトマネジメントと地質リスク」

発表者：渡邊 法美（高知工科大学）

要 旨：「地質リスク」並びに「地質リスクマネジメント（RM）」という考え方と用語は、近年、「市民権」を獲得しつつあります。様々な機関から、地質 RM に関する手引書やガイドラインも発刊されており、担当者の皆さまは、各自の My Model を構築し、それに基づいてマネジメントを実践されていることと思います。発表者も、「地質 RM はプロジェクトマネジメント（PM）の一つである」との視点に立って、My Model を検討してきました。今回は、PMBOK（プロジェクトマネジメント知識体系）を補完する新しい PM の考え方を紹介し、そこから得られる地質 RM に関する示唆を共有させて頂きたいと思えます。

2. 「土木事業における地質・地盤リスク」

発表者：梶山 敦司（土木研究所）

要 旨：土木構造物のほとんどは、地質・地盤を基礎あるいは材料として利用しています。地質・地盤は自然に形成されているため、分布が複雑で性状も不均質な事が多くなります。また、地下の状態を直接確認することが難しいため、地質・地盤の分布や性状の把握は困難で、想定との乖離は避けられない状況となっています。このような地質・地盤の取扱を間違うと、土木事業では事業の効果と効率性を損ない、事故や損害につながる場合があります（地質・地盤リスク）。講演では、「土木事業における地質・地盤リスクにはどういったものがあるのか」と「土木事業におけるリスク対応方法」について説明します。

3. 「地質地盤リスクの高い堆積物・堆積構造の分布と特徴：関西での事例について」

発表者：北田 奈緒子 様（地域地盤環境研究所）・三村 衛（京都大学）

要 旨：施工工事中にトラブルが発生しやすい地盤の分布や成因を把握すれば、施工前にリスクの高い地域を抽出することができます。地盤工学会関西支部においては、2010 年 から委員会を設置してトラブルを発生させやすい地盤の特徴について、大阪平野を中心に検討を行いました。この時に取りまとめたトラブルが発生しやすい地盤は、一般的な標準貫入試験や柱状図に記載された地層区分では十分に予測できないものです。しかしながら、これらの地盤は必ずしもランダムに存在するわけではなく、一定の堆積環境場において堆積するものであると考えられます。これらの検討結果を報告します。

4. 「災害リスク評価のための地質情報整備」

発表者：川畑 大作（産業技術総合研究所 地質調査総合センター）

要 旨：地震による地盤変形、降雨による斜面崩壊、火山噴火による溶岩流や降灰などの自然現象は、災害として社会活動に多大な被害を及ぼすことがあります。防災のためには誘因となるこれら自然現象のメカニズムを解明することが重要です。一方で、例えば斜面崩壊が発生しやすい地質を明らかにするような素因に関する研究は、災害リスク評価に役立ちます。これらの研究には、地質図をはじめとした基本的な地質情報が必須であり、地質調査総合センターでは地質情報の整備を系統的に行っています。本講演では地質調査総合センターが整備している地質情報とその活用例について紹介します。